

西条市学校適正規模・適正配置等審議会（第1回）議事録

日時：令和6年6月25日（火） 14時30分から16時00分まで

場所：庁舎本館5階502会議室

出席委員：20名 ※欠席委員なし

1 開会

2 教育長挨拶

3 委員紹介

4 会長及び職務代理者の選任

会長：露口健司委員 職務代理者：松本卓也委員 選任

5 会長挨拶

6 諮問

7 議題

会議の傍聴及び会議録の公表について

会議の傍聴については、事務局の議事説明後は公開しないこととして、傍聴者の退席を求めることとし、議事録の情報公開については、発言者の氏名は非公開とし、要点のみ開示することを決定した。

(1) 学校規模適正化等に向けた検討の経緯について

資料1【学校規模適正化等に向けた検討の経緯について】を説明

(2) 小・中学校の現状や今後の推移等について

資料2【小中学校校区図】、資料3【R6 児童生徒数・学級数】、資料4【市町別学校数推移（H16～R5）】、資料5【市町別小学校・中学校 学校当たり学級数分布（R5）】、資料6【児童生徒推移（H1～R6）】、資料7【小・中学校別児童生徒数及び学級数推移（～R6）】、資料8【児童生徒数一覧表（R06）】、資料9【学校施設主要建屋集計表】、資料10【学校規模適正化アンケート調査結果】を説明

8 意見交換

【質疑応答】

■委員

学校適正化に関するアンケート調査では、全体の約7割が学校規模適正化を望むことが明らかになったとあり、他市では適正配置の言葉もあるが、適正配置に対する意見はなかったのか。

□事務局

適正化を望む声はあったものの、適正配置についてはアンケート項目がなかった。

■委員

アンケート調査について、保育園関係者に対するアンケートがないのは残念。これから小学校に上がる保護者がどう考えているのか欲しかった。また、校区ごとになると結果が違うのではないかと。校区ごとの分析結果はどうなっているのか。

□事務局

当時のアンケート調査では、保育園、幼稚園の保護者の方は対象になっていない。今後そのような機会があれば考えたい。また、アンケートに未就学の保護者の方が入っていないということで、本審議会委員の中に幼稚園及び保育園の保護者の代表者に参加いただいたところである。校区ごとの分析については確認する。

■委員

資料にある推計方法は、他市でも一般的に使われるものなのか。

□事務局

国立社会保障・人口問題研究所の推計方法に基づいている。

■委員

1 学年あたりの学級数については、法令で定められている標準とする学級数と同程度の規模を求める声が多い結果となったとあるが、生徒数はどのように考えているのか。

□事務局

1 学級の生徒数については、他市の方針を見てみると、文科省の基準に合わせていないことから、本市においても、審議会の中でご意見をいただくことになると考えている。

【意見交換】

■委員

地域のコミュニティが小学校と関連していることから、再編がどうなるか分からないが、小学校の児童は、最終的に中学校で一緒になることを踏まえると、中学校区を超えたエリアでの再編はやめてほしい。

■委員

小学校、中学校の児童数が減ったから数を減らすということになると、地元の活動拠点がなくなっていく。地元の活動拠点も集約するとなると、それぞれの地区によっていろいろなわだかまりというものが生まれる。小さなコミュニティでも、わだかまりなどがある。アンケート調査がなぜ6年生と3年生なのか。全部を対象にしても良いのではないかと。偏りがあると感じる。

■委員

コミュニティの関係から言うと、やはり小学校は極力残してほしい。時代の流れ、少子化

という問題で児童生徒数が減ると、財政的な面も考えると、統廃合はやむなしと思うが、なるべく、現状を少しでも長くつないでほしい。校区の配置換えなどによって生徒数を若干調整するなど、学校を少しでも長く置いてほしい。

■委員

地域内で話し合いをして、極力現状を維持していきたい。

■委員

総合教育会議の中で、子どもたちの学習及び学校生活環境を最優先に検討していくとあるのは、非常に良いこと。まず、子どもたちのことを本当に考えて適正化を進めてほしい。小学校や中学校の保護者からすると、アンケートで小学校に地域コミュニティや避難所などの機能を期待する方が少ない傾向が見られるのは、少し辛くなった。実際、地域でコミュニティスクールを行っていて、連携を期待する声が少ないのは残念と思うが、地域も頑張らないといけない。

■委員

コミュニティスクールが今年から始まったが、もし今後校区を再編するとなった場合、また新しいコミュニティスクール事務局を立ち上げ、統合した中での新しい活動になってしまうため、丁寧な説明が必要になってくるのではないかな。地域の協力が得られるような協議を進めてほしい。今後、配置の話も出てくると思うが、その時に、最も遠い子どもは、どの辺に住んでいるとか、交通機関との兼ね合いなどもあるので、大まかな居住地のようなものも示してほしい。

■委員

複式が増えてきているから統合するのも仕方ないと思うが、小規模校の出身で複式が当たり前で育ってきたため、複式ならではの良さを知ってほしいところもある。一方で、支援学級が増えているところに注目しており、そういうところをも含め考えてほしい。

■委員

大規模校の出身ゆえに、小規模校の感覚が少し分からないところがあるものの、小規模校の良さや課題、大規模校の良さや課題はそれぞれあると思う。また違う観点では、教員の数が確保できてない状況が全国的に課題として出ている。適正化を議論していくと、教員についても適正に配置できる可能性があり、教員の働き方改革にもつながるのではないかな。

■委員

事務局として、大体何年までに何校ぐらいのイメージで進めていこうという考えがあるのか。また、他市の視察の結果を早いうちに見せてほしい。働き方改革も言われている中で、小規模校に子供が通っていて、教頭が担任を持つという状況は、保護者としてはありがたいが、教員の負担については心配であった。小規模校ならではの良いところはたくさんある。

■委員

小学校や中学校がない地域、そして、統合された小学校や中学校が遠い地域に人が住んでくれるのか、というところは改めて危機感を持っている。仕方ない流れとは思いますが、統廃合というだけの問題ではなく、地域のあり方にも関わってくる問題と思うので、統合してよかったというようなメリットを大きく出したい。

■委員

子どもが通う小学校では、全学年に交流文化があり、友達がいっぱいできたりしている。小規模ならではの良さもある。

■委員

子どもたちが安全に通えるかなど、そういうところが重要である。

■委員

各委員、特に自治会関係者の話を聞いて、最終的に納得できるところに結論をとどめていかなければならないなという感想。高校では、東予と小松と丹原については、学校整備の仕方が決まったので、今年度、3校の生徒の共同的な学び、交流学习に力を入れている。1学期、特に東予高校の工業高校での取り組みに丹原高校の生徒が参加し、子どもたちは本当に楽しんで仲良くなってくれている。小学校や中学校でもきっと子どもたちにとって良い学びが達成されると思うので、まずは地域が納得する形と子どもたちが生き生きと学べる場所を作るということが重要である。

■委員

公立保育所、公立幼稚園では統廃合が始まり、計画も進んでいる。そこでもやはり、子どもの減少も当然あるが、職員不足の解消のために進んでいるようにも感じている。小学校も教員がおそらく足りておらず、ものすごく大きな問題である。職員や経費のことも考えると少し難しい部分があるが、子どもにとっては、異年齢児、多様性を含めた保育や教育が最先端だと思う。

■委員

一番の課題は、子どもの数が減っていることであるが、保育士の確保ができない状況に対しては、やれることからやるしかない。この10年で、ものすごい勢いで人口減少と社会が良い意味でも悪い意味でも変わってきていて、これからもっと早くなって、想像できないぐらいになっていく、そういう怖さを感じている。その中で、子どもたちをどうやって育てていくのかなどがあり、現実を見つめながらも、一方では、子どもたちにこんな風であってほしいなど、次の世代のことを考え最初に結論を決めるのではなく、もっと頭を柔らかくして考えないと子どもたちの未来がかかっている。

■委員

学校現場では、実感として生徒数が減っていると思っていたが、10年先、20年先の予測

により具体的に実感できた。それを踏まえて、目の前にいる子供たちの現状を見ながら、将来的に子どもにとって、どんな環境が良いのかを真剣に考えたい。

■委員

小規模校から大規模校まで勤めてきた。中には、1人の子が卒業するまで存続していた学校もあったが、その子に社交性がないというような問題点があるわけでもなく、中学校に入ってから少し増えた仲間たちと一生懸命部活動に取り組み、頑張っている姿も見ている。学級数、人数を考えながら適正化をしていくというのは分かるが、地域のことなども考えて、小学校がなくなると地域の勢いがなくなっていくところも見ることがあり、人数だけにとらわれない話し合いができて、いずれは適正化をしていかなければならないと思うので、慎重に審議できれば良い。

■委員

合併して20年、その間にすり合わせしていくのにこれだけ時間がかかって、中々、1つになるのが大変だということは実感してきた。それを踏まえて考えないといけない。単学級の学校では、トラブルが起こった時に、お互い納得はしたものの、わだかまりは残っているという状態で時間が過ぎていくが、これらを解決できないまま卒業していくことになる。それが、2クラスあると、一旦クラスを離してお互い違うクラスで育ったあと、もう一度、クラスを一緒にすると、今度はわだかまりが解けていてうまくいくということもある。子ども同士の当然あるべきトラブル、摩擦をうまく解消するには、経験上、2つ学級があることは有効である。また、適正化を考える時には、子どもの学びを最優先に考えてほしい。地域のことを考えるというのは当然であるが、まずは、こどもの学び、子どもがどうあるべきかがあり、地域がどう協力していくか、どう関わっていけるのかを考えてほしいし、順番も必ず子どもから考えてほしい。

■委員

教員としては、やはり子どもにとって安全、安心を含め、子どもにとって何がいいのかというところで答えを出したいというのが本音だが、中々そういう訳にはいかない。学校には、子どもたちには、関係者や関係団体といったものがある。そのことを考えた適正化でなければ、大事な継続ということにはならない。教職員にとっても何がいいのかということも考えて進めていきたい。統合が進んだら先生が増えるかというのと、そう限らない。学級が増えたら、そこに増えるというような状態にはならない。2校の学校が統合して、1校の学校と同じ規模になった場合は、同じ教員になり、逆に数は減る。そういうことも考えた時に、2学級あったらいいなと思いがちだが、40人ずつの2学級は、中々大変である。2学級で41人になったらまた全然違う。そのようなバランスも、先を考えて適正化できたら良い。考えられる課題は本当に山積しており、慌ててやることはない。多方面から考えなければならないことがあれば、後から気がつく課題もあって、1つ1つを解決しながら進めていくというのが大事。正直、教員だけの力で子どもたちを育てるのは難しく、関係者、保護者、地域の力を借りて成り立っているような学校教育である。地域が大きくなるということは、育てる力が大きくなるという考え方もでき、そうすると、今以上の良い教育ができるの

ではないか、そういう適正化を進めていけたら良い。

◆会長

簡単に整理すると、地域の皆様方からは、できれば残してほしいということ、再編するにしても中学校を超えるようなことはやめてほしい、ここを調整することでギリギリ残していく方法はないか、コミュニティスクールの活性化などで地域の力を担って作り上げてバックアップしていければ、といった意見が寄せられた。

全体的には、やはり子供の学びの保証、これを優先順位トップにして考えていくべきだろうということ。学校生活とか通学の安全性というところの意見もあった。子供中心で議論を進める必要があるというところと、とは言っても、やはり教員不足という現実的な課題というところの視点をやはりこうしっかり取り入れて見ていかないとなかなか現実的な議論にならないだろうという意見もあった。さらに、小規模の良さや課題、大規模の良さや課題など、それぞれのクラスサイズ、生徒数の良さや課題の整理もしていく必要がある。そのほか、今後の要望として、こういったところに子供たちが住んでいるのかがわかる資料を提示してほしいというものがある、これについては、今後の地域ごとの議論の中で、資料として出てくると思われる。タイムテーブルの要望については、これから令和の何年頃に何校とか、こういった形でというところなど、これも、議論の最後になってくると思うが、事務局から先に出るというよりも、この議論を経て最後の成果物として出ていくような感じかなとイメージしている。

最後になるが、再編のメリットを示すことができるような議論になればと思う。各地域からは、なぜ再編するのだという厳しい声が上がってくると思うので、それにしっかり応答できるように、こういうメリットと、こういう趣旨で、こういうビジョンでという、その辺りをしっかり、この審議会の中で共有できればと思う。

■委員

学校の現状というのは十分理解していないが、教員不足の問題もあれば児童数の低下もあり、今からの流れとして、IT化が進んで、タブレットを各個人が持つようになると、遠距離でも授業を受けることができ、学校は統合しても分校方式などがあるのではないかな。

◆会長

非常に重要な論点かと思うので、ICTの活用を含め、また議論できればと思う。

■委員

仮に、児童数プラス支援学級生を足して何人以上になると2学級になるという決まりはあるのか。

■委員

1学年は36人になると学級が割れるが、特別支援学級の子どもが交流で来る場合はカウントしない。

■委員

地域では、小中一貫校を作るのも1つの考え方ではなかろうかという意見もある。

◆会長

そういったところも視野に入れながら、議論を進めていければと思う。

9 その他

・今後のスケジュール等について

その他資料1【西条市学校適正規模・適正配置等審議会 審議等スケジュール（案）】を配付し説明

10 閉会